

移動式処理事業について



平成26年5月22日(木)
第13回遺棄化学兵器処理事業に関する有識者会議

1. 石家荘処理場への砲弾輸送と廃棄処理再開
2. 武漢処理場工事の完了と砲弾輸送、廃棄処理開始
3. ハルビン処理場のアクセス道路整備及び敷地造成の開始

2013年度後半～2014年度 移動式処理事業の計画

現在 ↓

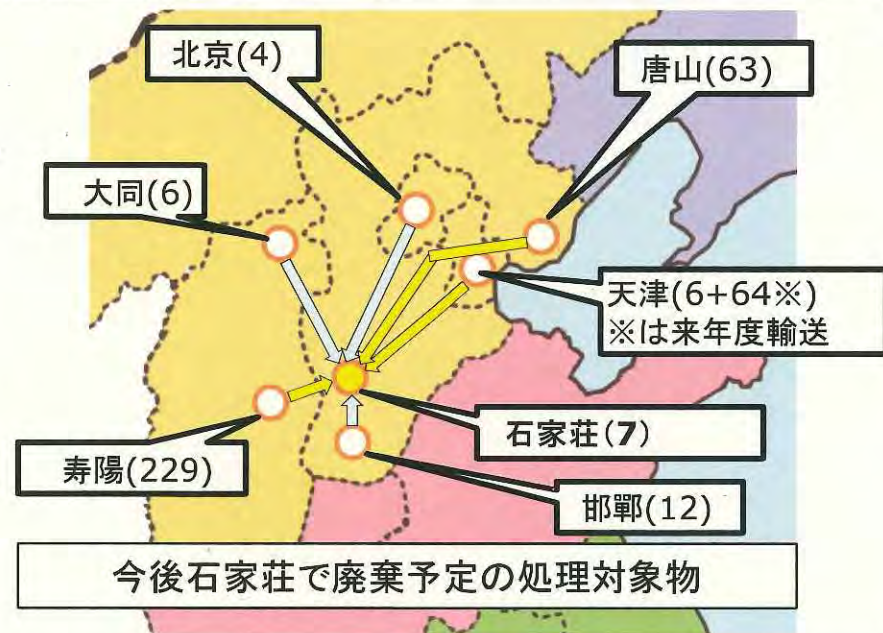
(現在中国側との調整中の事項が含まれており、今後変更・修正の可能性があります。)

		2013年度				2014年度											
		12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
南部 移動式																	
1	南京										廃棄物処理設備解体・輸送(日本へ)						
											きい剤補給容器前処理設備の改造設計・移送(石家荘へ)						
2	武漢	廃棄処理設備据付・組立												実弾廃棄・除染			
		造成・設備基礎工事												維持管理			
		管理棟・インフラ等工事予算調整				管理棟・インフラ等工事											
		砲弾輸送準備(信陽、周口、洛寧、武漢、宜昌、岳陽、長沙、安慶、杭州)				砲弾輸送											
3	広州					処理場候補地選定(面積、借料、周辺調査、条件検討)								事前調査(測量、地質、水質、周辺環境)・リスク評価			
北部 移動式																	
4	石家荘										実弾廃棄・除染				維持管理		
		維持管理															
		砲弾輸送準備(天津、唐山、北京、大同、寿陽、邯鄲)				砲弾輸送					砲弾輸送準備(天津追加砲弾)						
5	ハルビン	設計に係る調整(設備収納庫等)				環境バックグラウンド調査、地質調査、敷地造成・アクセス道路等設計及び調整等					設備収納庫設計及び調整等						
						敷地造成・アクセス道路整備等					(冬季休止)						

中国北部に導入する遺棄化学兵器廃棄処理（移動式処理）事業について（石家荘）

【第1処理場（石家荘）進捗状況】

- 石家荘保管庫に保管されていた**1,383**発を2013年7月に廃棄完了。本年6月から周辺保管庫に所在する処理対象物（砲弾等**316**発及びきい剤補給容器**4**缶）を輸送し、9月から11月にかけて廃棄予定（4缶分は除く）。石家荘の処理対象数の総計は現時点において**1,774**発。（石家荘7発は輸送不要、天津64発は来年度輸送。）
- 万が一黄燐弾が混在していた場合に対応するための設備改造は、2013年11月に完成。【※次頁参照】
- 昨年12月の外務省調査及び本年1月から3月の緊急・発掘回収事業で回収された天津のACWと、太原で今後回収されるACWも廃棄する必要。



【今後の見通し】

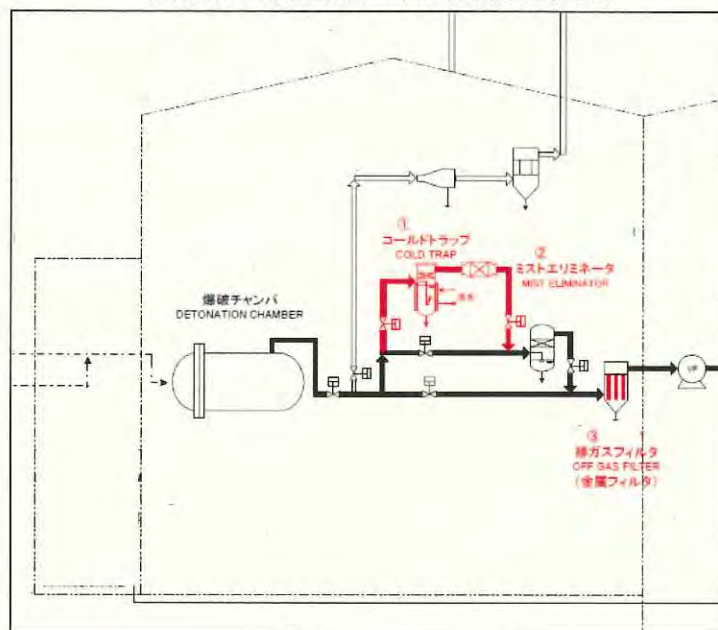
- 本年6月より天津、唐山、北京、大同、寿陽、邯鄲から砲弾輸送を行い、砲弾6発（石家荘のあおしろ弾1発 寿陽のあおしろ弾3発、邯鄲の不明弾2発）のX線鑑定を8月に実施した後、9月頃から廃棄処理を再開する予定。
- きい剤補給容器については、8月のX線鑑定で容器内の状況を確認。
- 昨年12月の外務省調査及び本年1月から3月に発掘回収事業で回収された天津のACW及び、今後太原で新たに回収されるACWの廃棄は来年度となる見込み。 3

北部第1処理場（石家荘）における黄燐弾対応のための設備改造の概要

【黄燐弾対応設備改造の目的】

- 本改造は、黄燐等が含まれている可能性のある対象物についても、安全かつ故障なく廃棄処理を行い、移動式廃棄処理設備の健全性を保持することを目的とするもの。

黄燐弾対応設備 改造箇所概要図



※赤字部が設備改造箇所

【設備改造の完成状況写真】



【設備改造の主な内容】

- ① コールドトラップ(泡状の気体と水を接触させることにより物質を除去する装置)による未燃黄燐が含有する可燃性ダストを除去するための装置を追加。
- ② ミストエリミネータ(霧状の気体と金属網を接触させることにより物質を除去する装置)による黄燐含有ミストを除去するための装置を追加。
- ③ 排ガスフィルタ(排ガスをろ過膜を通過させることにより物質を除去する装置)の耐熱性を向上させるため濾材を金属製に変更。

中国北部に導入する遺棄化学兵器廃棄処理（移動式処理）事業について（ノルベリン）

【北部第2処理場(ハルビン)進捗状況】

○日中專門家協議

本年3月6日、北京にて中国側専門家と敷地造成・場外アクセス道路等の設計に係る協議を実施。引続き、中国側と設計内容について協議中。



【今後の見通し】

ハルビンについては、引続き各種計画の準備を進めるとともに、道路等の場内・場外設計を確定し、本年7月頃から敷地造成工事を開始する予定。

中国南部に導入する遺棄化学兵器廃棄処理（移動式処理）事業について（武漢）

【第2処理場（武漢）進捗状況】

○工事等について

武漢処理場の造成・基礎工事完了。
廃棄処理設備据付・組立工事及び廃棄処理設備の
オーバーホール完了。
管理棟改修・インフラ整備工事に着工。

○砲弾輸送について

砲弾輸送実施計画について中国側と調整中。



廃棄処理設備の維持管理作業

【今後の見通し】

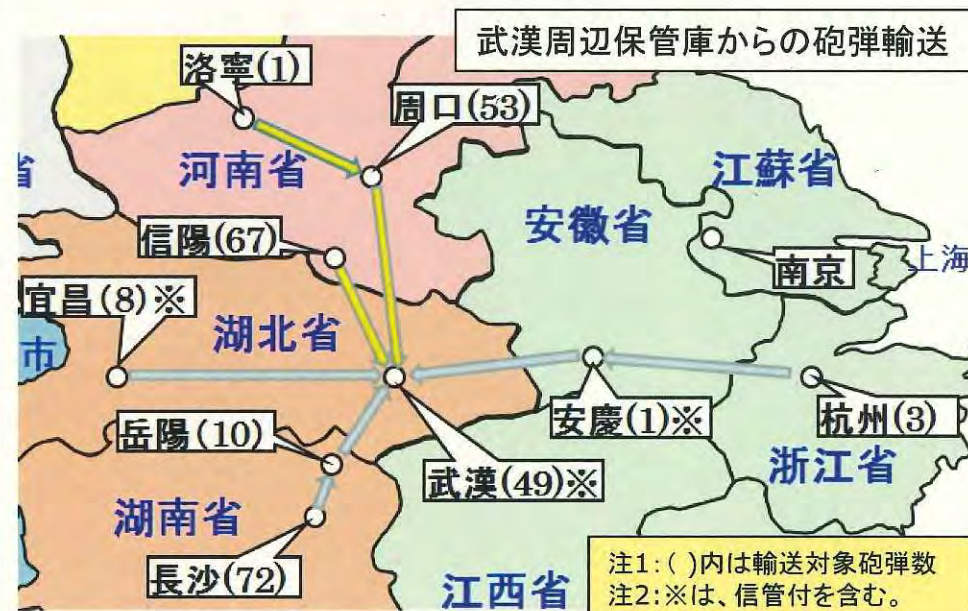
○2014年9月頃に管理棟改修・インフラ整備等工事が完了し、処理場建設は完了予定。

○現時点での処理対象砲弾は**264**発。
内訳は、きい弾23発、あか弾149発、あおしろ弾1発、
有毒発煙筒79発、その他12発。

信管付は、武漢6発、宜昌2発、安慶1発。

○2014年9月頃より信陽、周口、洛寧、武漢、宜昌、岳陽、長沙、安慶、杭州の砲弾を武漢処理場内保管庫に輸送予定。

○2014年12月に廃棄処理を開始し、今年度中に廃棄完了予定。



中国南部に導入する遺棄化学兵器廃棄処理（移動式処理）事業について（武漢）



① 正門から総合教学楼を望む



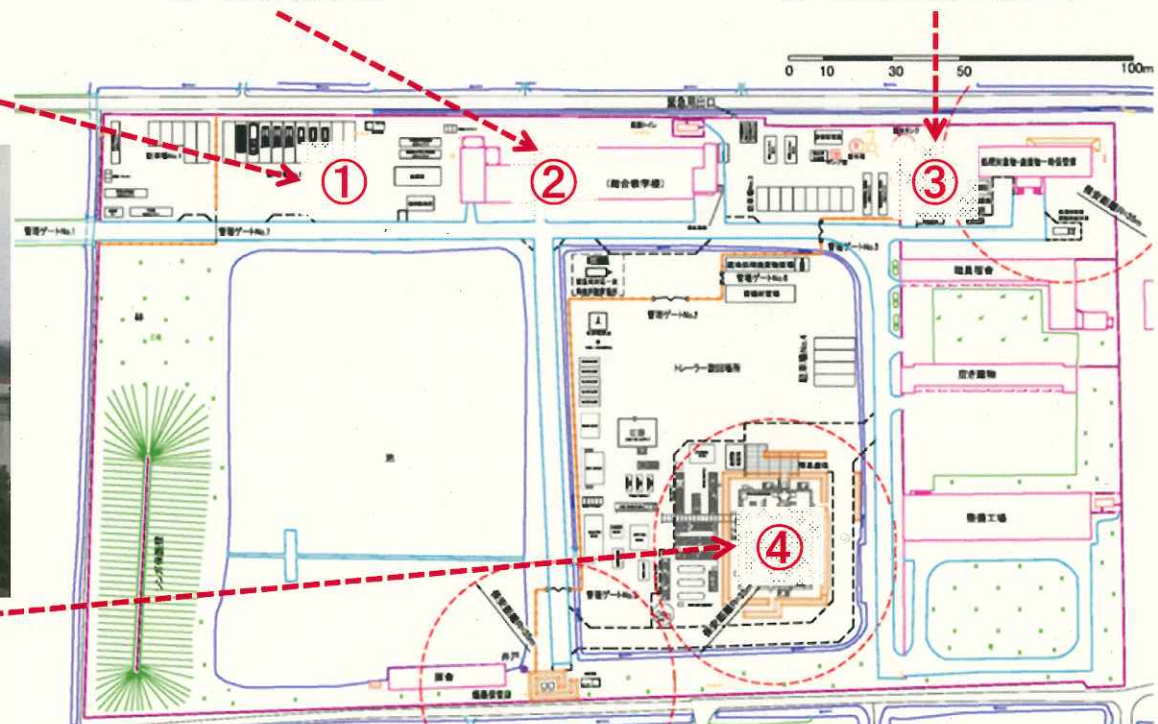
② 総合教学楼



③ 消防水槽Ⅰ期工事



④ 爆破処理テント



中国南部に導入する遺棄化学兵器廃棄処理（移動式処理）事業について（南京・広州）

【第1処理場(南京)】

- 廃棄物等（危険廃棄物約56トン、汚染物約144トンをドラム缶137本、ポリ容器6,023本、フレコン7個に保管。）の保管状態には3月末現在で特段の異状・不具合は発生していないことを確認。
- 廃棄物処理設備は、今年度中の日本への再輸出を調整中。
- きい剤補給容器前処理設備は、石家荘処理場において使用する予定で、8月に予定されるX線鑑定の結果を踏まえ、改造の必要性と方向を見極め。
- 諸設備の撤去後、事業による汚染がないことを確認する環境モニタリング調査を実施予定。



【南京で保管中の廃棄物等】

【第3処理場候補地(広州)】

- 2013年7月に中国側より新しい候補地（第二候補地）の提示を受け、広州第二候補地に関する質疑を何度か行ったが、2014年2月に中国側より第二候補地が使用不能となったとの連絡があった。
- 現在、中国側より第三候補地の提示待ち。
- 中国側からの広州第三候補地の提示後に、第三候補地に関する情報収集及び現地確認等を行い、採用の可否を判断する。
- 処理場用地の決定後、周辺住民調査、現地測量、水質調査、地質調査、バックグラウンド調査等の各種調査、リスク評価、処理設備配置計画等を行うとともに、準備工事に関する各種設計調整を行う。
- 現時点での処理対象砲弾は314発（広州309発、南寧5発）。
内訳は、きい弾74発、あか弾219発、有毒発煙筒5発、その他16発



【第二候補地(2014年1月)】

ハルバ嶺での事業について



平成26年5月22日(木)
第13回遺棄化学兵器処理事業に関する有識者会議

1. 試験廃棄処理施設建設の完了

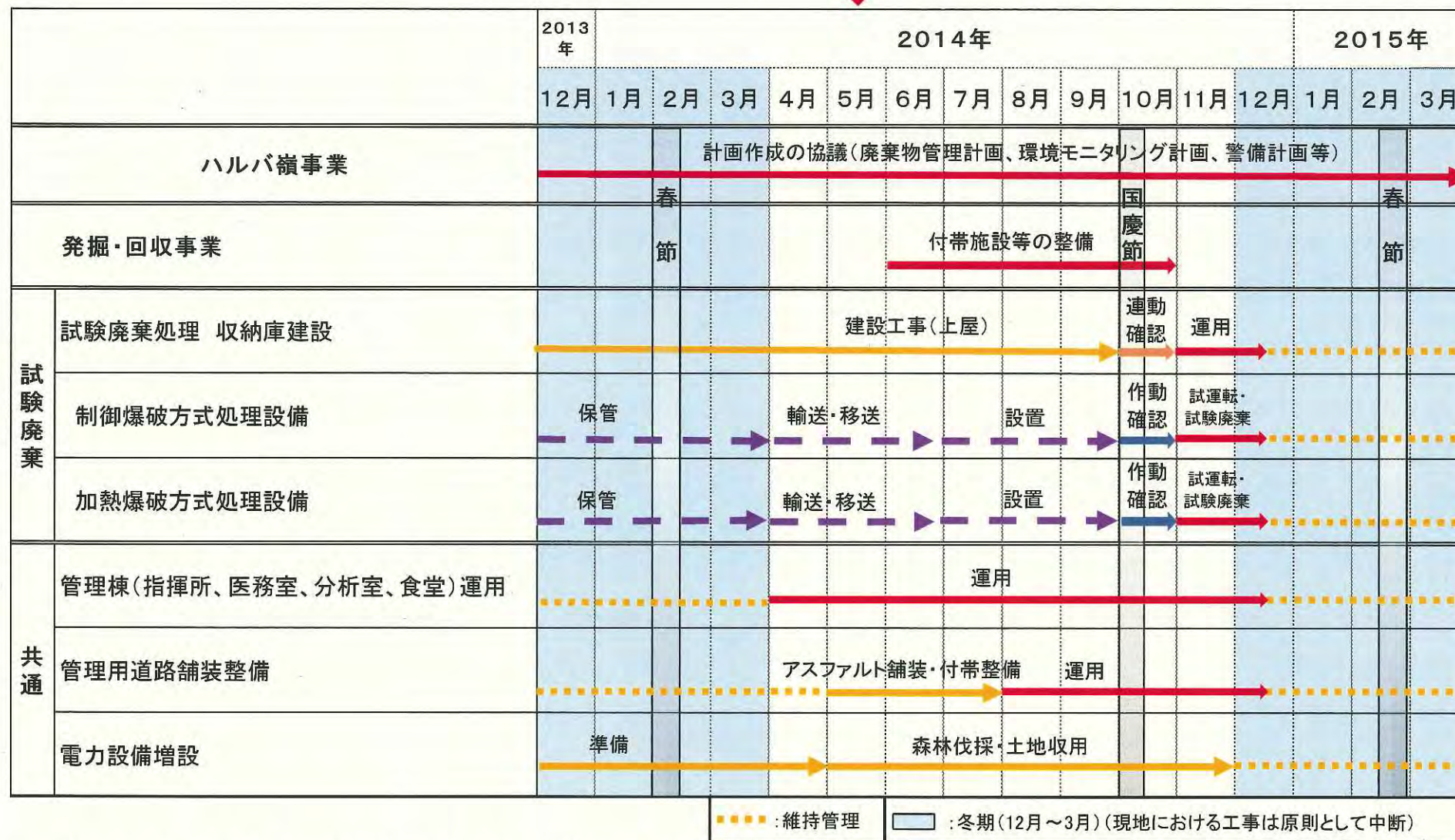
2. 試験廃棄処理設備の試験廃棄の実施

3. 発掘・回収付帯施設等の整備完了

- ・来年度からの発掘・回収事業を円滑に実施できるよう、本年中に作業環境を整備する。
- ・発掘・回収付帯施設の整備及び回収棟及び2号発掘棟近傍の法面防護補強工事等を実施する。

ハルバ嶺事業の進捗状況及び今後のスケジュール（予定）

現在



（現在中国側との調整中の事項が含まれており、今後変更・修正の可能性があります。）

ハルバ嶺試験廃棄処理施設・設備の進捗状況

【試験廃棄処理施設進捗状況】

- ・ 試験廃棄処理設備収納庫（上屋）の建設工事が昨年9月に着工。
- ・ 現在、躯体工事を実施中。本年11月から運用開始予定。

【試験廃棄処理設備進捗状況】

【制御爆破方式】 中国天津市内に一部の主要機器を保管中。収納庫建設の進捗状況に合わせて、日本国内に保管している機器を輸送するとともに移送、設置予定。

【加熱爆破方式】 同上。



設備収納庫(上屋)工事中
(制御爆破処理施設の状況)

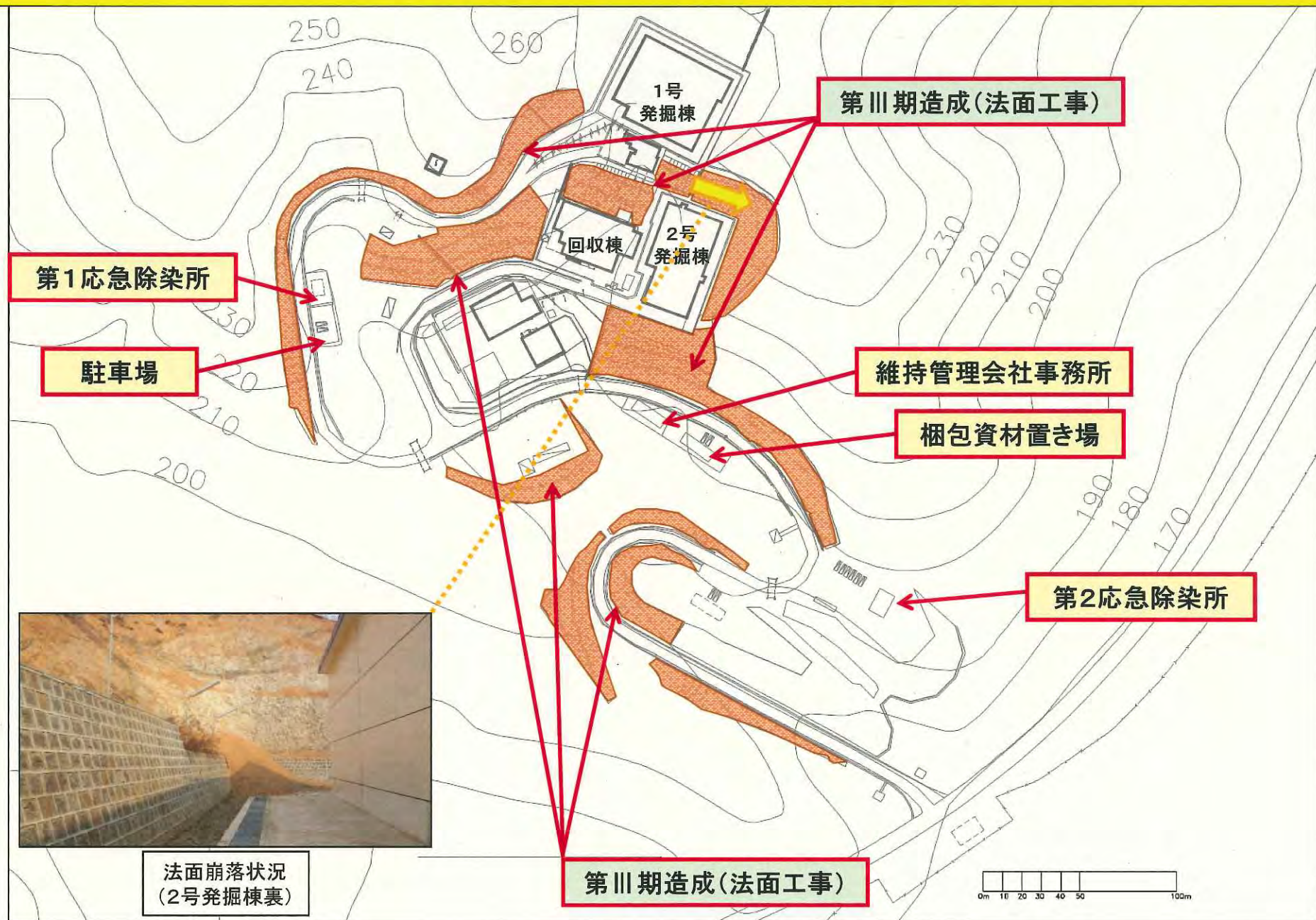


設備収納庫完成予想パース



天津市内倉庫の保管状況

ハルバ嶺発掘・回収付帯施設等の整備



ハルバ嶺インフラの整備



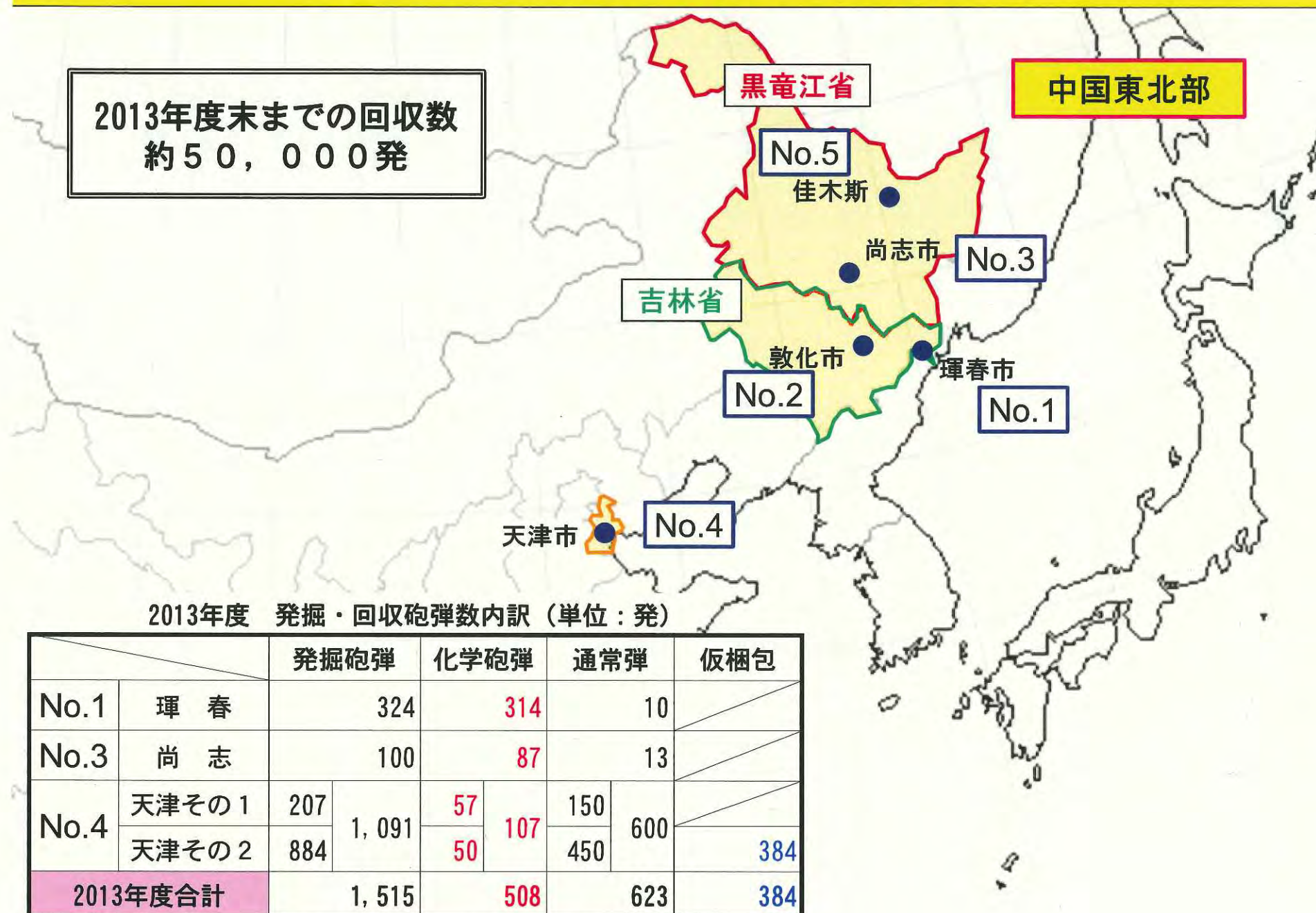
中国各地での発掘・回収事業について



平成26年5月22日(木)
第13回遺棄化学兵器処理事業に関する有識者会議

2013年度中国各地域の発掘・回収事業実施箇所

2013年度末までの回収数
約50,000発



天津市滨海新区緊急発掘・回収事業

No.4

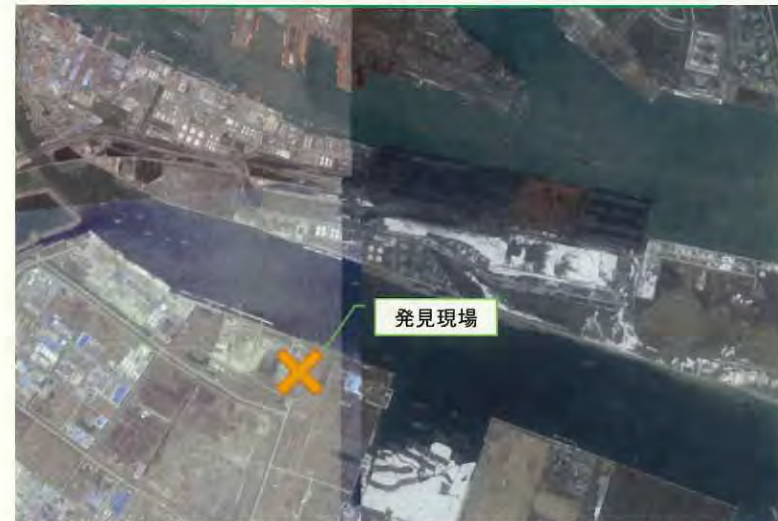


1 経緯

- (1) 2013年11月 タンカーターミナル建設工事現場にて砲弾141発発見、中国側より通報を受ける。
- (2) 2013年12月 外務省緊急現地調査
- (3) 2014年 1月 緊急発掘・回収
- (4) 2014年 2月 緊急発掘・回収 (その2)
- (5) **2014年 3月 緊急発掘・回収終了**

2 現地の特徴

- (1) 現地は、天津港沖合に投棄された砲弾が、浚渫土を埋め立てに利用する際、浚渫現場から埋立地に移動したものと推測される。
- (2) 発掘対象地域は30m×50mと狭く、また土質が軟弱であるため、効率的な発掘・回収作業を阻害



		発掘砲弾		化学砲弾		通常弾		仮梱包
No.4	天津その1	207	1,091	57	107	150	600	384
	天津その2	884		50		450		

※① 外務省現地調査後、**141発**の砲弾を**天津保管庫**に保管

※② 化学砲弾107発のうち、**10発**が**きい弾**

2014年3月末現在

No.4 天津市現場



2014年度中国各地域の発掘・回収事業実施地域（予定）



2014年度 回収砲弾数内訳（単位：発）

		鑑定対象弾数	外観鑑定	X線鑑定
No.1	天津	536	492	133

2014年度中国各地域の発掘・回収事業



No.	年月 事業	2014年									2015年		
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1	天津	X線鑑定											
2	太原		事前調査										
3	敦化			#1発掘・回収				#2発掘・回収					
4	琿春							春節	事業内容は中国側と調整中			春節	
5	尚志								事業内容は中国側と調整中				
6	佳木斯	基礎情報調査結果等に基づく工法の検討				詳細調査	調査報告書確認		工法案の検討				

【凡例】

- 発掘・回収事業：青太矢印
- 発掘・回収以外の事業：点線矢印
- 日中共同実施：青点線矢印
- 中国側へ依頼：赤点線矢印

中国北部（天津市）回収事業（X線鑑定等）

1 経緯

- (1) 2014年 3月 緊急発掘・回収終了
- (2) 2014年 4月 中国北部（天津市）回収事業（X線鑑定等）開始
(4. 21～5. 27)

2 回収作業の概要

早い時期に534発の対象砲弾の鑑定（外観・X線）を実施し、処理のための準備（石家荘への砲弾輸送）の円滑化を図る。**本事業間における終了を追求**

3 作業現場の特徴

作業現場は海岸付近に位置し海風が強い。

4 回収事業の流れ（概要）

天津市回収砲弾数内訳 (2014年5月20日現在)

	鑑定 対象弾	外観 鑑定	X線 鑑定
天 津	536	492	133

※ 鑑定対象砲弾数は、外務省現地調査後に
中国側が回収した141発、仮梱包した384発、
発掘・回収事業で外観鑑定した結果、きい
弾であった9発、5/16に回収された105mmき
い弾の合計536発

開梱作業



外観鑑定



X線鑑定



梱包作業



太原市杏花嶺区発掘・回収事業（事前調査）

1 経緯

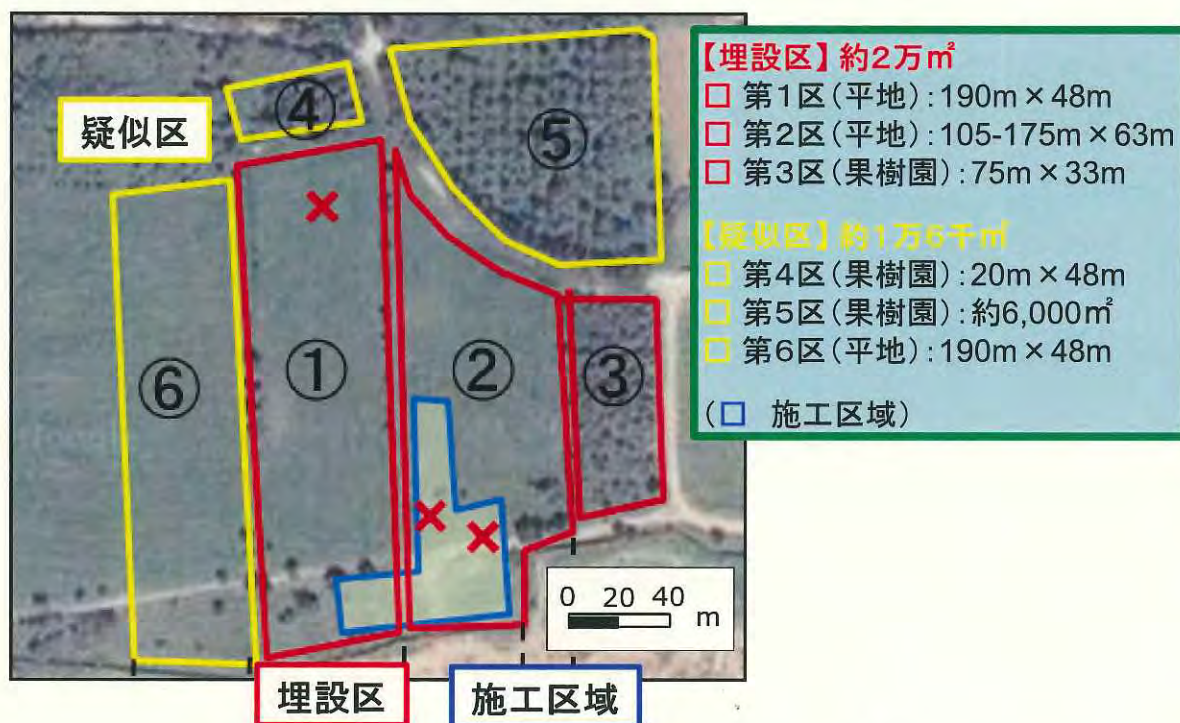
- (1) 2014年2月 山西省太原市の新興住宅地の施工現場で砲弾が発見
- (2) 2014年3月 外務省緊急現地調査にて8発の化学砲弾を初歩的に確認
- (3) 2014年5月 発掘・回収事前調査開始（5.12～6.9予定）

2 事前調査の概要

じ後の発掘・回収事業の実施にあたり、埋設区（第1区～第3区）内の水平探査及び垂直探査による調査を実施中

3 作業現場の状況

作業現場は、砲弾が存在すると考えられる第1区～第3区（埋設区）及び砲弾の存在は未確認だが探査不十分のため砲弾の存在の可能性が排除できない第4区～第6区（疑似区）に区分されている。



敦化市春化路発掘・回収事業（その1）及び（その2）

1 経緯

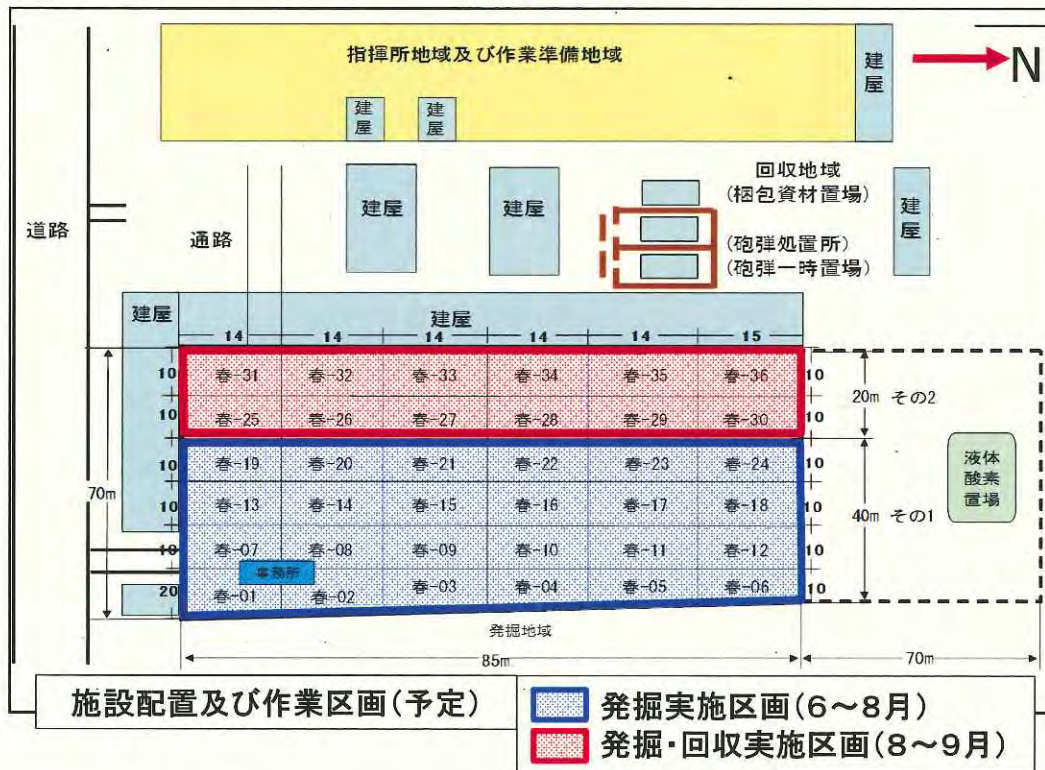
- (1) 2005年10月 春化路（天馬公司敷地内）にて化学砲弾14発発見
- (2) 2012年 6月 外務省現場視察
- (3) 2013年 5月 外務省現地調査（内閣府同行）
- (4) 2013年 8月 外務省試掘
- (5) 2013年10月 内閣府事前調査

2 現地の特徴

敦化市市街地に位置し、付近にガソリンスタンド、酸素工場、住宅、学校、周辺住民の生活・経済活動を担う主要道路が存在

3 今後の予定

昨年度の事前調査結果を踏まえ、6～8月及び8～9月の2回に分けて、発掘・回収事業を実施予定であり、**本事業間における終了を追求**



琿春市英安林場発掘・回収事業（中国側と調整中）

1 経緯

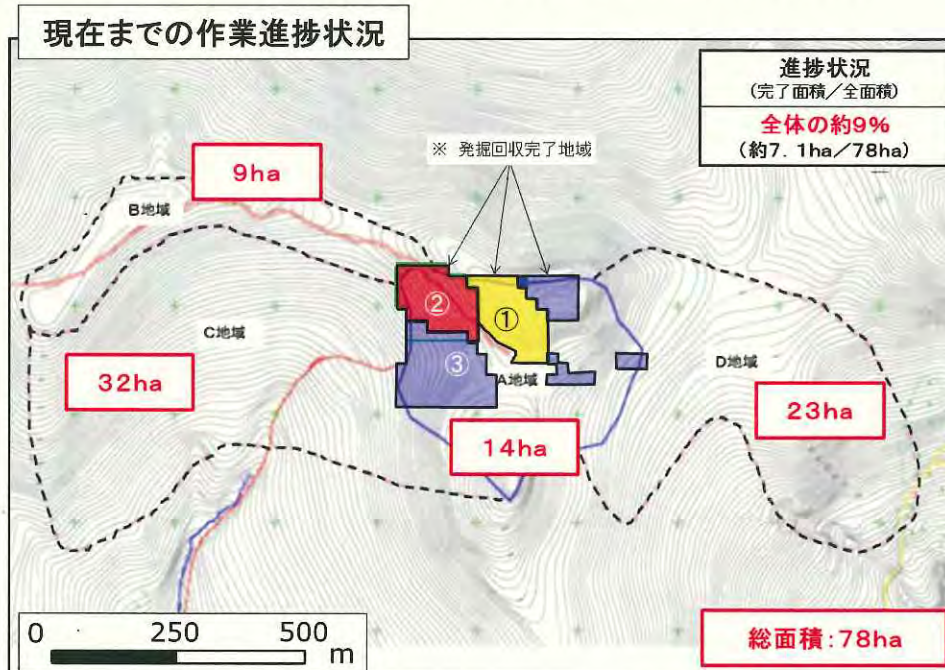
- (1) 2008年 5月 琿春市英安林場にて化学砲弾33発発見
※3名があか弾により負傷（鼻血等）
- (2) 2008年 6月～ 現地調査～道路用地の安全化～森林伐採
- (3) 2012年 9月 発掘・回収事業開始
- (4) 2013年 7月 アクセス道路完成、発掘・回収事業再開

2 現地の特徴

琿春市街地から約37km離れた地域であるが、夏季の降雨と冬季の降雪は作業期間及び実施に影響を及ぼす。（4～6月、8～10月が作業に適）

3 今後の予定

全地域の発掘・回収には、**標準的な発掘・回収事業を年4回実施しても8年以上はかかると見積もられ**、期間短縮をするため、発掘対象地域の範囲確定が必要である。対象地域は山・谷を含むので、更なる期間がかかることが見込まれるため、今年度の事業内容については中国側と調整中である。



現地(英安林場)の様子
山・谷のある広大な林地

尚志市帽児山鎮発掘・回収事業（中国側と調整中）

1 経緯

- (1) 2013年 5月 建設工事現場において砲弾19発発見
- (2) 2013年 6月 中国側より砲弾発見の通報
- (3) 2013年 8月 外務省現地調査
- (4) 2013年10月～ 緊急発掘・回収

2 現地の特徴

約3km四方の地域の各所に砲弾の発見情報があり、中国側は各地域の特性等から10区に区域割りしている。作業期間は農作業や降雪の影響により限定（4～5月頃、9～10月頃）

3 今後の予定

第1区での砲弾発見数が多いため、第1区の砲弾発見地点等を中心に優先順位をつけ、発掘回収事業を検討中であるが、今年度の事業内容については、中国側と調整中



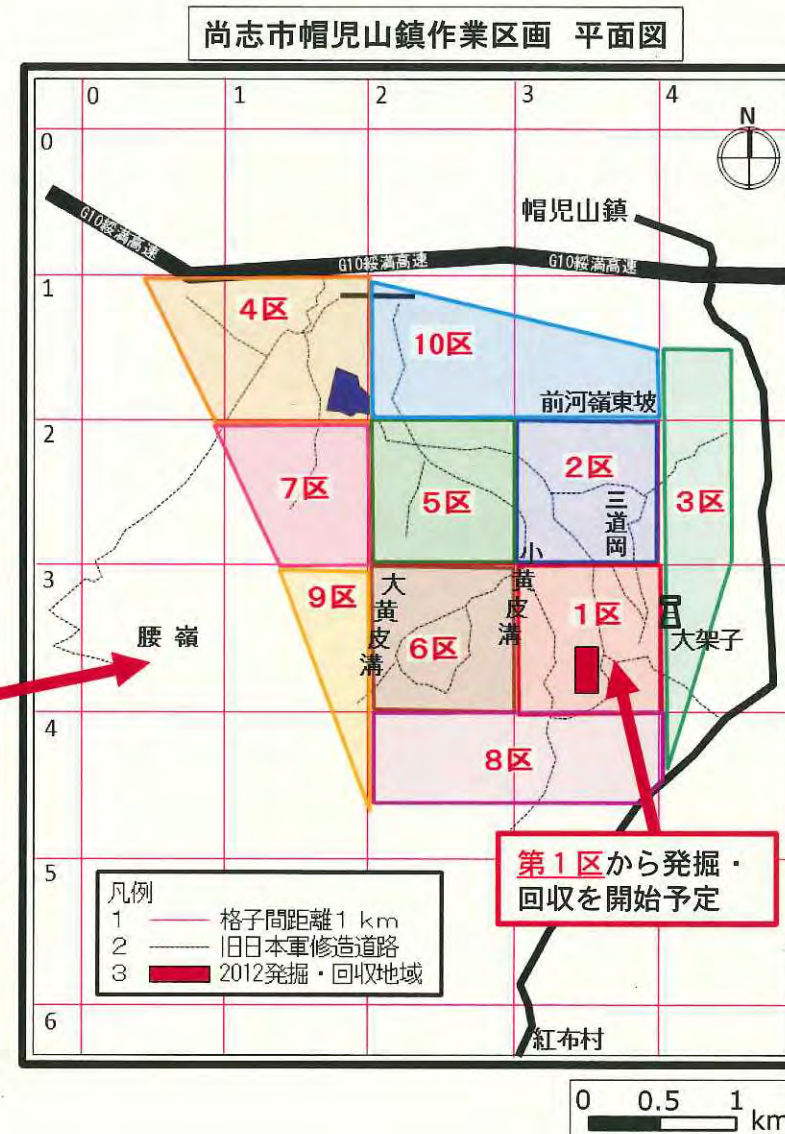
農地(畑)



尚志の位置



テニ養殖場 工事現場



佳木斯市事業

1 経緯

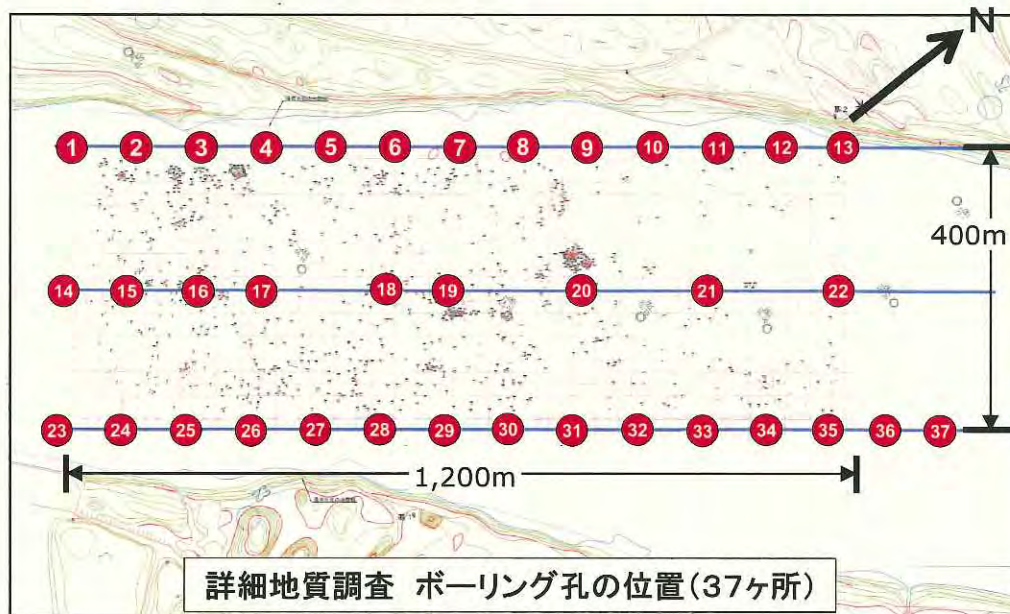
- (1) 2006年 6月 黒龍江省佳木斯市松花江水域にて114発（うち化学砲弾82発）が発見され、同月、外務省緊急現地調査
- (3) 2007年6月～ 発掘・回収方式策定のための現地調査及び磁気探査実施（～2010年10月迄）
- (4) 2011年11月～ 止水壁工事工法検討に必要な地形地質等の基礎情報調査終了
- (5) 2012年～ 詳細調査実施の検討（2013年9月実施要領確定）
- (7) 2014年 6月～ 詳細調査実施（予定）

2 詳細調査における調査項目

地形測量（1：2000地形図の作成）、詳細地質調査（締切り工事区域の調査ボーリング（37ヶ所））、水文試験、水文気象・融氷期流水実測調査（実測値の収集分析）、磁気探査（調査ボーリング予定ポイントの磁気探査）

3 今後の予定

詳細調査実施後、調査結果を分析するとともに、分析結果に基づいて、締切り工法案の比較・検討及び推奨工法案の選定を実施予定



遺棄化学兵器の新規発見の状況

1. 2013年度における中国政府からの新規発見通報

	通報時期	場所	通報内容	外務省の対応	内閣府の対応
①	2013. 6	広東省 広州市 番禺区 明星村	水路に砲弾 5 発、更なる埋設の可能性	6 月現地調査 9 月緊急回収	外務省による範囲確定結果を受け、発掘・回収事業を実施予定
②	2013. 6	安徽省 安慶市	砲弾 4 発	(2014年度調査予定)	(武漢で廃棄処理予定)
③	2013. 6~7	黒龍江省 尚志市	農地、テン養殖場等の広大な範囲に埋設	8 月、10 月 現地調査	昨年10月緊急発掘回収。 外務省が範囲確定した地域から発掘回収を実施予定
④	2013. 11	天津市	港湾建設現場で 141 発の砲弾を発見、更なる埋設の可能性	12 月現地調査 緊急回収	1~3 月発掘回収事業 4~5 月 X 線鑑定事業 (石家荘で廃棄処理)
⑤	2013. 11	河北省 邯鄲市	砲弾 2 発	(2014年度調査予定)	(石家荘で廃棄処理予定)
⑥	2013. 12	江蘇省 徐州市	農村の住宅建設現場で有毒発煙筒 10 発等が発見	2 月現地調査 2014年度再調査 (発掘) 予定	(武漢で廃棄処理予定)
⑦	2014. 2	山西省 太原市	住宅建設現場で信管付砲弾発見、更なる埋設の可能性	3 月現地調査	5 月発掘回収のための事前調査
⑧	2014. 2	浙江省 杭州市	有毒発煙筒 5 発	(2014年度調査予定)	(武漢で廃棄処理予定)



2. その他の要調査案件

2014年度当初現在の要調査案件数(上記②⑤⑥⑧を含む): 23件

(黒龍江省 8 件、吉林省 3 件、遼寧省 1 件、河北省 1 件、内蒙古自治区 3 件、江蘇省 1 件、浙江省 1 件、安徽省 1 件、広東省 2 件、広西自治区 2 件)

外務省から引き継ぐ可能性のある事業（発掘・回収事業及び回収（外観・X線鑑定）事業）

1 発掘・回収事業

現在、外務省と中国側で協議中の地域に、広州市番禺区明星村があり、範囲確定が行われ次第、引き継いで発掘・回収事業を行う可能性がある。

連番	場所	現在の状況
1	広州市 番禺区	多くの水上家屋が存在する「聯围涌(れんいよう)」（珠江支流である蓮花山水道から流れ込む水路）と呼ばれる地域で、3箇所から計5発の化学砲弾が発見されている。

発掘・回収事業を行う可能性のある場所



2 回収（外観及びX線鑑定）事業

既に外務省現地調査が行われたが、鑑定未実施となった砲弾について、引き継いで回収（外観及びX線鑑定）事業を行う可能性がある。

鑑定作業が積み残しとなっている場所				
連番	場所	対象物数 (内訳)	保管状況	備考
①	チチハル市 (フラルキ区)	34発	チチハル保管庫に保管	
	チチハル市 (碾子山区)	64発	碾子山臨時保管庫に保管	
②	牡丹江市	84発	牡丹江(寧安)臨時保管庫に保管	公安部門が次々と発見
③	佳木斯市	400発	佳木斯保管庫に保管	公安部門が次々と発見
④	尚志市	85発	尚志臨時保管庫に保管	

回収事業を行う可能性のある場所



2014 (平成26) 年度 遺棄化学兵器廃棄処理事業 に係る予算について



平成26年5月22日(木)
第13回遺棄化学兵器処理事業に関する有識者会議

2014(平成26)年度 遺棄化学兵器廃棄処理事業に係る予算のポイント

(単位：百万円)

1 事業の進ちよく等を踏まえつつ、事業を進める上で必要な経費を要求

2013(平成25)年度 当初予算額	2014(平成26)年度 予	対 前 年 度 増 減 額	対 前 年 度 増 減 比 率
21,125	26,700	+ 5,575	+ 26.4%

2 予算の主な内容

主 要 経 費	主 内 容	2013年度 当初予算額 (1元 = 13円)	2014年度 当初予算額 (1元 = 16円)	比較 増減額
廃 棄 処 理 事 業 運 営 費	・ 業務委託等に必要な経費	1,734	1,871	+ 137
ハルバ嶺事業等 関 連 経 費	・ 吉林省ハルバ嶺における発掘・回収及び試験 廃棄処理設備の運転等に要する経費	8,944	12,429	+ 3,486
発掘・回収事業等 関 連 経 費	・ 中国各地において発見される遺棄化学兵器の 発掘・回収等に要する経費 (吉林省琿春市、敦化市等)	2,983	4,309	+ 1,326
移動式処理事業等 関 連 経 費	・ 移動式処理設備における廃棄処理等に要する 経費 〔南部：湖北省武漢市 等〕 〔北部：河北省石家荘市 等〕	7,213	7,833	+ 621
事 務 費	・ 事務に必要な旅費、庁費等	252	257	+ 5
合 計		21,125	26,700	+ 5,575

※ 計数は、それぞれ四捨五入によっているもので、端数において合計とは一致しないものがある。

3 予算・決算・繰越について

主 要 経 費	2012年度 執行額	2013年度 当初予算額 (A)	2013年度 補正後予算額	2013年度 予算繰越額	2014年度 当初予算額 (B)	(A)-(B)
廃棄処理事業 運 営 費	1,540	1,734	1,734	0	1,871	+ 137
ハルバ嶺事業等 関 連 経 費	8,392	8,944	8,944	2,353	12,429	+ 3,486
各地発掘・回収 事業等関連経費	4,827	2,983	2,983	102	4,309	+ 1,326
移動式処理事業 関 連 経 費	5,359	7,213	7,112	2,981	7,833	+ 621
事 務 費	215	252	240	0	257	+ 5
合 計	20,334	21,125	21,012 (△113)	5,435	26,700	+ 5,575

※ 計数は、それぞれ四捨五入によっているので、端数において合計とは一致しないものがある。

そ の 他



平成26年5月22日(木)
第13回遺棄化学兵器処理事業に関する有識者会議

2013年度(平成25年度)実績

1. 委託費

(1) 対中

支出額 8,140,611,272円

(2) 国内

件名	契約日	相手方	支出額	繰越額
発掘・回収、廃棄処理	平成25年4月1日	一般社団法人 シーソック	1,803,611,396円	
南部移動式廃棄処理(24年度繰越分)	平成24年4月2日	株式会社神戸 製鋼所	307,013,000円	
南部移動式廃棄処理	平成25年7月1日	株式会社神戸 製鋼所	1,017,474,372円	138,420,628円
南部移動式廃棄処理環境モニタリング	平成23年2月14日	株式会社神戸 製鋼所	137,427,872円	
北部移動式廃棄処理	平成22年8月2日	株式会社神戸 製鋼所	1,542,664,660円	300,000,000円
ハルバ嶺制御爆破方式廃棄処理	平成22年8月2日	株式会社神戸 製鋼所	900,096,998円	1,121,347,500円
ハルバ嶺加熱爆破方式廃棄処理	平成22年8月2日	川崎重工株式 会社	1,497,083,471円	565,117,312円

2013年度(平成25年度)実績

件名	契約日	相手方	支出額	繰越額
ハルバ嶺廃棄処理環境モニタリング	平成25年3月28日	株式会社神戸製鋼所	11,674,607円	
ハルバ嶺X線鑑定装置・砲弾管理システム	平成23年3月30日	株式会社神戸製鋼所	107,867,200円	
発掘・回収に伴う河川・海洋関連工事技術的支援	平成25年4月1日	フジミコンサルタント株式会社	81,138,247円	
移動式廃棄処理監理支援	平成25年4月1日	フジミコンサルタント株式会社	475,981,224円	
施設建設等支援業務	平成25年4月1日	株式会社ジェイピーエム	373,557,460円	
環境モニタリング・分析技術的支援	平成25年4月1日	ユーロフィン日本環境株式会社	90,287,318円	
医療体制整備・検討	平成25年4月1日	日本エマージェンシーアシスタンス株式会社	98,503,581円	

2013年度(平成25年度)実績

2. 庁費

件名	契約日	契約額 (支払額)	相手方	契約方式
防護衣118着	平成25年11月15日	17,754,975円	東洋紡(株)	随意契約(競争を許さない場合: 防衛省開発装備品製造者)
携帯型個体・液体状物質検 知分析装置(ファーストディ フェンダー)3台	平成25年12月4日	25,200,000円	帝国繊維(株)	随意契約(競争を許さない場合: 日本代理店)
自動物質検出装置(RAID- M100)5台	平成25年11月29日	66,480,750円	新成物産(株)	随意契約(競争を許さない場合: 日本代理店)
ハルバ嶺における定置式 自動物質検出警報装置 (RAID-S2)整備・システム 化・設置・組立・試運転等	平成25年8月28日	12,586,623円	新成物産(株)	随意契約(競争を許さない場合: 日本代理店)

2014年度(平成26年度)

1. 委託費

(1) 対中

予算額 13,862,100,000円

内閣府随意契約審査会承認 平成26年3月26日

(2) 国内

件名	契約日	契約金額	相手方	契約方式等
発掘・回収に伴う河川・海洋 建設工事技術支援	平成26年4月1日	100,603,080円	フジコンサルタント株式会社	一般競争(1者、事前に市場価格調査実施、見積より△15%)
移動式廃棄処理監理支援	平成26年4月1日	506,457,360円	フジコンサルタント株式会社	一般競争(1者、事前に市場価格調査実施、見積より△16%)
施設建設等準備業務	平成26年4月1日	429,840,000円	株式会社ジェイ ピーエム	一般競争(1者、事前に市場価格調査実施、見積より△12%)
環境モニタリング・分析技術 支援	平成26年4月1日	113,400,000円	ユーロフィン日本 環境株式会社	一般競争(2者:いであ(株))
医療体制整備・検討	平成26年4月1日	119,709,122円	日本エマージェン シーアシスタンス 株式会社	一般競争(2者:インターナシ ョナルエスオーエスジャパン(株)、 25年度1者)
ハルバ嶺廃棄処理設備輸送	平成26年5月14日	109,836,000円	株式会社日新	一般競争(WTO対象)
ハルバ嶺廃棄処理設備追加 導入調査検討	平成26年5月16日	324,000,000円	フジコンサルタント株式会社	一般競争(総合評価、1者、事 前に市場価格調査実施)
南部移動式(26年度)	平成26年6月予定			随意契約 (随意契約審査会承認済)

2014年度(平成26年度)

2. 庁費(011廃棄処理事業経費)

予算額 125,481,000円

遺棄化学兵器処理事業に係る詐欺事件について

1. 事件概要

- ① 平成20年5月、(株)遺棄化学兵器処理機構(以下「機構」という)及びPCIの各関係者を、詐欺容疑で逮捕。
- ② 本件は、機構の業務委託費を不正に水増し計上したことで、財産上不法の利益を得たもの。
- ③ 平成21年3月、各被告人に対し、懲役刑(執行猶予付)(判決確定)。

2. 損害金回収に向けた内閣府としての取り組み

- ① 機構・PCI側は起訴相当額(平成16～18年度分約2.98億円)を返還。しかし、消費税+延滞金相当額(約0.8億円)については、現在に至るまで支払いに応じていない。
- ② 上記約0.8億円について民事訴訟を提起。平成25年9月、地裁判決(国側全面勝訴)。
→機構・PCI側は控訴。
- ③ 平成26年1月、高裁判決。(控訴棄却。(国側全面勝訴)) →機構・PCI側は上訴。
- ④ 刑事事件の対象外である「平成13年～15年度、19年度分」についても、不正水増しがあったとして平成25年10月に訴訟提起。(平成26年5月30日第3回口頭弁論予定)